

世間がとても騒がしくなってきました。時代の寵児みたいにもてはやされたホリエモンさんも逮捕されて、一転犯罪者に転向です。先のことなんて解らないもんですね。

でも子牛生産の未来は、まだまだピッカピカに明るそうです。だって、生産者の平均年齢は70歳近くですし、肥育農家さんの子牛需要に比べて子牛生産量がずっと少ないからです。子牛の値段はまだまだ下がりそうにありません。だって、子牛が安くなったら少頭数飼育のじいちゃんばあちゃんは牛飼いをやめちゃうでしょ？ そうしたら、またまた需要と供給のバランスがさらに崩れて値段が上がるのが予想されるからです。

ただ、世界的に牧草の供給が安定なくなっています。僕はこれまで「草作りするのが大変だったら、購入乾草を食わせたらいいよ。楽だし、その分頭数を飼えば収益も大きいから」って言ってきましたが、少し方向転換をしなくてはいけないみたいです。

牛さんは基本的に草食動物ですから、粗飼料の品質が悪くなると子牛の育成がうまくいかなくなります。最近の地球環境の悪化で、オーストラリアの干ばつとか、北アメリカの多雨などの異常気象が起こり、収穫される粗飼料の質が悪いものが増えています。さらにポジティブリスト制の実施で、購入乾草に残留した農薬が問題にされることも予想されます。

少々大変ですが、自分で草を作った方が、品質も安定するし、農薬などの心配もなくてよいです。じいちゃんばあちゃん達は、お金で人を雇っても自分ちの畑で草を作った方がいいと思いますよ。農協さんや各種団体でもそういう斡旋をしているところもあるようです。

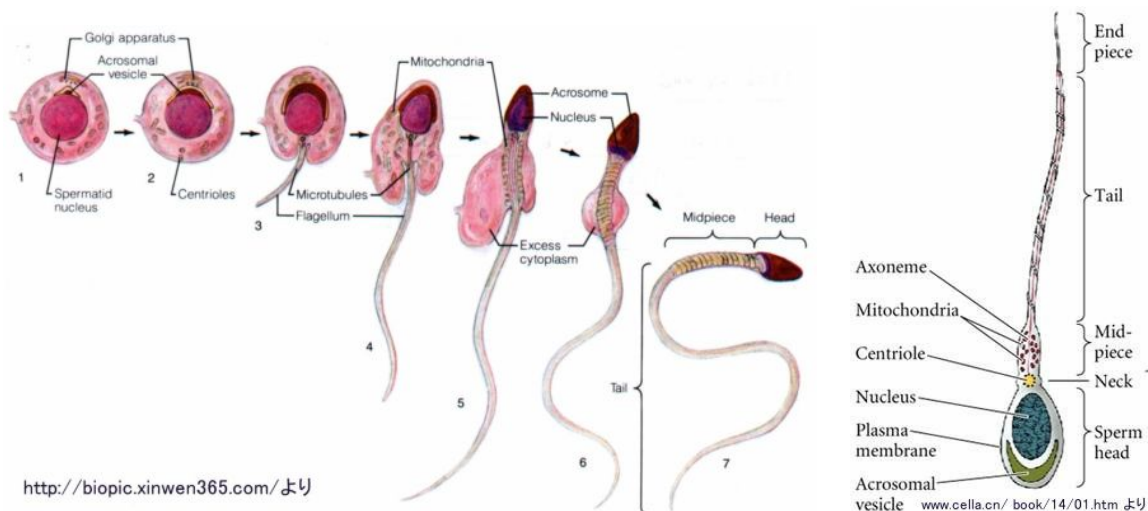
精子のおはなし

先月までは、繁殖に関わるお母さん側のお話しとして卵巣と卵についてお話ししてきました。今月はお父さん側のお話し、精子について考えていきましょう。

卵のお話しでも書きましたが、生き物の身体を作る細胞の核には染色体が二つ一組でそろっています。でも、お父さんとお母さんから新しい命を作るときには、お母さんの染色体一個とお父さんの染色体一個を組み合わせで新しい細胞(受精卵)を作らなければなりません。そのために、お母さんもお父さんも染色体が一つしかない特殊な細胞を作らなければならないのです。お母さんが作るのが「卵」でお父さんが作るのが「精子」です。お母さんの作る「卵」は減数分裂という細胞分裂で染色体を一個のみに減らすのですが、お父さんが精子を作るときもおんなじ減数分裂をします。



卵母細胞から卵ができるときは、2回の減数分裂で1個の卵が作られて、それぞれの分裂で生じるもう片方の細胞は消失してしまう「極体」という細胞になってしまうのですが、精子形成の時は、分裂したすべての細胞が精子になります。ですから一個の精祖細胞(精子のおじいさん細胞)からは最終的に64個の精子が作られるのです。精子形成にかかる日数は、牛さんでは約60日です。(みなさんもムダうちはやめましょうね)



卵は生殖細胞と言ってもまだ細胞らしい形をしています。精子は普通の細胞とは形も全然違います。普通の細胞は中心に染色体を持つ核があって、周りにいろんな構造(細胞内小器官とよばれるいろんな働きを持った小さい組織です)を含んだ細胞質があります。しかし精子はほとんどが核だけでできていて、しかもしっぽが生えています。このしっぽを使って精子は子宮の中を泳いで卵のところまでたどり着くのです。



精子は一回の射精で30億から60億個(人工授精のストロー1本には8~15億個)射精されますが、そのうちのたった一個が卵と合体して新しい命になるのです。だから、今生きている人は、みんな30億倍の競争率を勝ち残った方々なんです。しつこいけどみんな勝ち組なんです！自信持とうね。

